

COMPANY RESEARCH AND ANALYSIS REPORT

|| 企業調査レポート ||

トヨコー

341A 東証グロース

企業情報はこちら >>>

2026年5月26日 (火)

執筆：客員アナリスト

渡邊俊輔

FISCO Ltd. Analyst Shunsuke WATANABE



FISCO Ltd.
<https://www.fisco.co.jp>

トヨコー Research Memo : 需要は十分で 3 期連続の増収増益へ、インフラメンテナンス技術で高成長

トヨコー<341A>は、老朽化した工場等の屋根を独自工法で塗装・防水工事を行う SOSEI (ソセイ) 事業と、老朽化した橋梁・鉄塔など社会インフラのサビを除去する加工装置を製造・販売する CoolLaser (クーレーザー) 事業を展開している。祖業でもある SOSEI 事業は安定収益源としての役割を担い、目下は社会インフラ老朽化が社会問題となるなか、成長事業である CoolLaser 事業に経営資源を多く投下してきた経緯がある。足元では同製品の市販モデル上市を受けて収益拡大中であり、社会課題の解決の観点も相まって、動向が注目されている。

業績予想達成に必要な十分なリードで高成長維持に向けて順調に推移

1. 2026 年 3 月期の業績概要

2026 年 5 月 13 日に発表された通期決算は、売上高で前期比 54.7%増の 3,133 百万円、営業利益で同 108.8%増の 629 百万円となり、高い成長を見込む事前予想（売上高 3,000 百万円、営業利益 580 百万円）を上振れての着地となった。セグメント別では SOSEI 事業が売上高で前期比 11.3%増の 1,783 百万円、営業利益で同 10.2%増の 630 百万円、CoolLaser 事業が売上高で同 219.3%増の 1,350 百万円、営業利益で 249 百万円（前年同期は 69 百万円の赤字）となり、CoolLaser 事業の立ち上がりが顕著であり、黒字化を達成した。CoolLaser の納入実績は今期累計で 12 台だった。

2. 2027 年 3 月期の業績見通し

2027 年 3 月期通期の業績は、売上高が前期比 27.7%増の 4,000 百万円、営業利益が同 25.6%増の 790 百万円と、3 期連続で増収増益となる見込み。両事業とも業績予想達成に必要な十分なリードを有するが、更なる成長に向けては生産キャパやリソース拡大に取り組む方針となる。中東情勢の影響も限定的であり、高成長維持に向けて順調に推移している。

社会インフラのサビを除去する CoolLaser がさらなる時価総額拡大のけん引役

3. 中期経営計画の進捗状況

同社は2024年12月9日にCoolLaser事業の「中期経営計画」を発表している。2028年3月期までの各期の下限と上限の納品台数目標を設定しており、2026年3月期は9~15台、2027年3月期は16~24台、2028年3月期は35~65台、2030年3月期は120台を目標としている。また、2028年3月期をめぐり20百万円/台の原価低減を進めている。経済産業省より、産業標準化推進活動に優れた功績を有する個人及び組織を表彰する、2025年度「産業標準化事業表彰」において、「イノベーション・環境局長表彰」を受賞している。足もとでは、独立行政法人国際協力機構（JICA）より、「2025年度中小企業・SDGs ビジネス支援事業（JICA Biz）」に採択されるとともに、関越自動車道で横河ブリッジホールディングス<5911>とを試験施工している。今後は歩道橋の延命化、防衛分野での活用なども視野に入り、営業活動も活性化しよう。試算される国内市場規模800億円を踏まえると、拡大余地は著しく大きい。また、海外展開を見据えている点もアップサイド要素であり、2月12日には初の海外受注を中東地域で獲得した（1台、納入時期2027年3月迄）。今後は、生産体制、保守・管理、人員採用、コーポレート・ガバナンスなど、規模拡大に伴う組織運営の強化も併せて確認していきたい。

4. 株価

上場間もないこともあり、中期の事業に関するアナウンスは上記のCoolLaser事業の「中期経営計画」のみとなる。CoolLaserの120台販売という数値は、利益率が大きく変化しない前提を置いても、営業利益CAGRで+50%を上回る。今期予想PERは現在40倍を超えているが、2030年3月期に向けての最低限の数値となるであろう15倍を置いても、時価総額は300億円超となる。膨大な需要を背景に、利益成長率で20~30%を保っていれば、400~600億円という時価総額も十分視野に入ってくる。引き続きAI関連に見られるような高いPER評価を保ちながら、高い利益成長に応じた株価の切り上がりが想定でき得るシナリオということになる。

Key Points

- ・ SOSEI 事業と CoolLaser 事業の 2 本柱
- ・ CoolLaser 事業は研究開発から収益化フェーズに入り、業績拡大中
- ・ 2026 年 3 月期業績は過去最高益、2027 年も 3 期連続の増収増益へ
- ・ インフラが老朽化するなか、国内外でのニーズは大きく、アップサイドは大きい

ディスクレーム(免責事項)

株式会社フィスコ(以下「フィスコ」という)は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受け、企業から報酬を受け取って作成されています。本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかなを問わず、いかなる責任も負いません。

また、本レポートに掲載されている発行体と当社(IR コンサル部)は現在または将来において、(アナリストレポートの作成や動画配信、IR コンサルティングサービスなどの)有償の取引を行っている/行う場合がございます。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話 : 03-5774-2443 (IR コンサルティング事業本部)

メールアドレス : support@fisco.co.jp